

福知山医師会だより

あかひげ

2003年



福知山医師会館

- 受診のタイミングは如何に？
- 整形外科医と柔道整復師（整骨、接骨）の違い
- お薬の飲み方について
- 質問コーナー
- 「狸婆さん」のはなし

受診のタイミングは如何に？

小児救急の立場から



子供は基本的には健康である。しかし、いったん38～39℃に発熱したり、嘔吐や下痢を認めたりグッタリした状態になると親の不安は極

端に増強します。特に夜間だと不安はより強くなります。

こんな場合、子供の一般的な病気とはどのようなものかをしっかり理解しておけばあまり慌てる必要はないでしょう。具体的には、①子供の病気の多くは急性疾患である（それまで元気だったのが急に発熱したり、腹痛を訴えたりする…）。②命に関わるほど繰り返しのつかない状態にはめったにならない。③短期間で症状改善することが多い。④症状に合わせた行動をとる（大人のように無理はしない）ので客観的に症状の軽重を把握しやすい。



以上の点を理解しておけば病院を直ちに受診すべきか、しばらく様子を見てから受診の要否を決めるかある程度判断は出来ると思われれます。とりわけ、夜間に症状が出た場合、すぐに受診する保護者もよく見受けられますが、夜間は病院のスタッフも昼間ほどそろってなく、一晩様子を見ても問題のない症例の方が圧倒的に多いため、こういった場合はできるだけ昼間の診療時間内に受診するようにすべきでしょう。

さて、病院を受診するタイミングをどの様に判断すべきかというポイントを症状別にいくつか述べてみましょう。

①＜発熱＞

まず発熱ですが、発熱時体温は普通37.5℃から41℃台までの範囲内で変動するため、たとえ40℃になっても発熱以外の症状がほとんど問題なければ直ちに病院を受診する必要はなく、1～2日は様子を見てもよいと思われれます。発熱だけで夜間の救急を受診する例が多いですが大抵はその時点では問題ない事が多く、保護者の発熱に対する不安感が大きな要因になっているようです。3～4日間も続く時は必ず受診して下さい。

②＜咳＞

咳は日常的によく認める症状です。朝と夕方に軽く出る程度で本人が元気ならばしばらく様子を見てもよいでしょうが、1日中あるいは夜中に強く出現し、このため食事が出来ない、夜中眠れない、遊ぶ事が出来ない場合は早めに受診する必要があります。特

に息を吐く時にゼイゼイとなる喘息発作やケンケンと犬が吠えるような咳で息を吸う時に苦しくなる喉頭炎(クループといいますが)の症状のときはその日のうちの受診が必要です。



う。しかし、そうでない場合、5~10分あるいはそれ以上に長く続いたり、嘔吐を伴ったり、顔色が極端に悪い場合は直ちに受診が必要です。

その他症状はまだ色々ありますが、子供が病気かなと思わせる症状を呈した場合、それが本当に急いで病院を受診する必要があるかどうかよく観察するのも重要です。〈食べる(食欲)〉、〈寝る(睡眠)〉、〈遊ぶ(元気・活発)〉および〈機嫌〉のどれかがあるいはすべてにおいて支障があれば問題ですが、ほとんど支障がなければ経過観察だけで症状は落ち着くことも多いので、この〈食べる〉〈寝る〉〈遊ぶ〉および〈機嫌〉を病院受診のタイミングを計る判断材料として加えておけばより良いのではないかとも思われます。

3 <嘔吐>

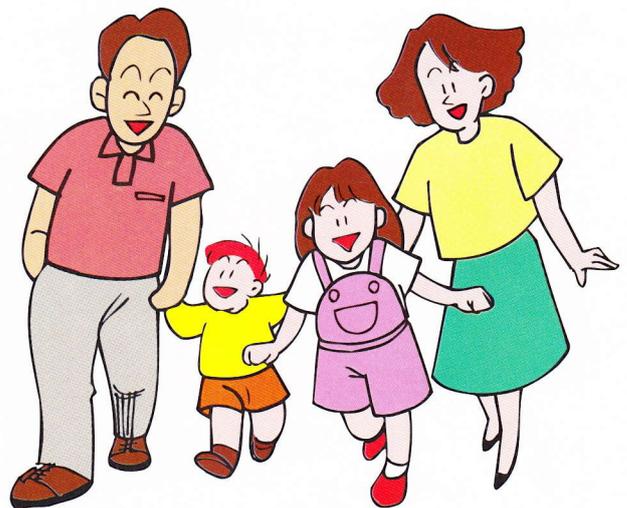
嘔吐は腸カゼでよく見られますが、咳をしすぎて出る場合もあります。1~2回の嘔吐ならそのまま様子をみてもよいでしょう。しかし、絶食のうえ、水分摂取も制限しているにもかかわらず、4~5回と吐き続け、顔色も不良な場合はその日のうちに受診すべきです。特に意識状態が不良な場合は救急受診が必要です。

4 <下痢>

下痢は腸カゼでつきものですが水分が充分取れておれば2~3日は様子をみてもよいでしょう。しかし、下痢が頻回で腹痛が強かったり、血液の混入を認める時はその日のうちの受診が必要です。

5 <痙攣(ひきつけ)>

痙攣(ひきつけ)は熱性けいれんでよく認めますが、最初から熱性けいれんとわかっておればそれほど慌てなくてもよいでしょう。



日頃、整形外科医として診療をしておりますと患者さんから「整形外科は整骨、接骨とどう違うの?」と言うふうに聞かれます。そこで今回はその違いとそれに関連するお話をしたいとおもいます。

整形外科医と柔道整復師(整骨、接骨)の違い

最も大きな違いは柔道整復師は医師ではないという事です。したがって、打撲、捻挫及び応急の場合の骨折、脱臼しか扱えません。また、骨折、脱臼の場合は医師の同意書がなければ再度の施術(柔道整復師の行為は治療と言わず、施術と言います。)は出来ないということです。もちろん、医師ではありませんので、レントゲンをとったり、投薬や注射をしたり、ギブスを巻いたりすることは出来ません。

すなわち、応急の場合を除いては骨折、脱臼が疑われるようなはれや内出血がある場合は整形外科でレントゲンを撮影し、適切な治療を受けて下さいと言うことです。

事実、経験を積んだ整形外科医でも皮膚の上からみるだけでは骨折しているかどうか、わからないことも多いのです。また、慢性的な首、腰、膝などの痛みに関しても施術を行うことは、法的に禁じられています。それは、慢性的な痛みの原因には重大な病気が隠れていることも多いからです。具体的には骨の腫瘍(癌)に気づかず、施術を受けたために、かえって悪化してしまったケースなどが挙げられます。

その他にも柔道整復師とは異なりますが、カイロ、整体、骨盤矯正などと銘うった施設があります。これらは日本では法的に認められておらず、従って施術者のレベルもまちまちであり、医学的効果についても科学的評価はいまだ定まっていません。特に背骨のゆがみが全ての痛みの原因のように唱う施設もありますが、(痛みをさけるための一時的なゆがみは、痛みがとれば自然に矯正されます。)加齢などによる背骨の変形によるゆがみは、皮膚の上から触れるだけで矯正されるものではなく、無理に矯正しようとするとかえって背骨を痛めてしまうおそれがあることを知っておくべきでしょう。

整形外科では診察、レントゲン検査のほか、必要であれば血液検査、CT、MRIなどの精密検査で痛みの原因を正確に診断し、日々の痛みを和らげるだけでなく、可能であれば、病気の根本を治すことを目標としています。痛み、しびれなどでお困りの方、特に慢性的な症状のある方は、整形外科でしっかりとした診断、治療を受けて頂くことをおすすめします。

	整形外科医	柔道整復師
資格	大学医学部卒業(6年間)、 医師国家試験	専門学校卒業(3年間)、 整復師国家試験
扱える病気	簡単にいえば、四肢、脊椎の 外傷を含むあらゆる病気	打撲、捻挫及び応急の場合の 骨折、脱臼のみ
保険	ほぼあらゆる保険利用可能	受領委任払い制度 (保険者が認めた場合のみ有効)

整形外科医と柔道整復師(整骨、接骨)の違い

お薬の飲み方について

お薬をいつ飲めばよいのかを説明します。まず食後薬について説明しましょう。食後とは食事の30分後のことを言います。食後30分というのは、人が食物を摂り消化するために、たくさんの消化液を出し栄養物を吸収しようとするときで、薬を飲むタイミングとしては最適だと思われます。しかし、食後30分を患者様に守ってもらうように説明すると、飲み忘れが非常に多くなりますので、食事をすれば直ぐに飲んでよいと説明しています。それに鎮痛剤などは少しでも胃を荒らさないように、できるだけ食後を守っていただくよう説明しています。

次に食前薬について説明します。食前薬は、食後に飲んででは効果が期待できない薬が多いようです。普通、食前とは食事の30分前のことを言いますが、すべてが30分前に当てはまるとは限りません。例えば、糖尿病の薬など食事の直前（10分ぐらい前）に飲まないとも効果が期待できない薬があります。それに、副作用の原因になることもあります。骨粗鬆症という病気に使う薬の中には朝食の30分以上



前に飲む必要があるものがあります。これは薬の性質により胃の中の食物が薬の吸収の邪魔をするためです。

次に食間です。食間とは食事の2時間後のことを言います。つまり空腹時といってもいいんじゃないかと思えます。

次に頓服について説明します。頓服とは、今の症状を治すために飲む薬のことを言います。解熱剤や鎮痛剤はもちろんのこと、便秘薬、睡眠剤、狭心症の薬などいろんな薬が頓服になる可能性があります。頓服が処方された場合、どんなときに飲むのかよく聞いておくことが大切です。

薬の飲み方でもう一つ大切なことがあります。たくさんの水で薬を飲む必要はありませんが、食道に薬が停まらないようにすることが大切です。もし食道に薬がひっかかり、そこで薬が溶け出すと、食道に炎症を起すことがあります。最近、水なしで飲める薬が増えていますが、それ以外の薬は適当量の水で飲むことを勧めます。



質問コーナー

Q&A



最近、新聞やテレビで混合診療という言葉がよく使われていますが、何のことでしょう？



回答

医療費は、現在、医療保険制度で支払われています。皆様もご存知のように窓口での自己負担は3割となっています。



保険診療においては、保険で認められた診療行為以外は行うことができません。ところが、新しいお薬や治療法はすぐには保険適用になりません。もし、適用になっていない治療をした場合、同時に行われている本来保険のきく医療も全て保険給付を受けられないの

です。つまり、保険がきかない医療が混ざっていると、その人の医療費は全部自分が支払わなければいけないというのが現状です。

混合診療は、保険診療で認められた医療費は医療保険で支払って、認められない医療費は、全額個人が負担をするということです。つまり、オプションのようなかたちで保険外医療をできるようにしようという考え方です。

一見、合理的なように思いますが、この制度を導入すると、保険のきく医療を低いレベルに抑えて、少し良い医療や新しい医療を自費にしていくということになりかねません。これは、みんなが必要としている医療を十分に保険でまかなわないということで、まともな医療を受けようと思うと高いお金が必要になるということです。

何も混合診療を行わなくても、最新の治療法を保険医療で認めれば、みんなが良い医療を受けられるということなので、日本医師会は混合診療の解禁に反対をし、最新の医療を保険でできるように政府に働きかけています。



「狸婆さん」のはなし

役場の職員に連れられて老婆が午後の診察室にやってきた。静かに座っているかとおもえば、すぐヨタヨタと目的も無く部屋の中を動き回り、しきりに腹を叩いて何やらブツブツ言っている。職員の話によれば、「今まで一人暮らしでやってきたが、この状態では一人暮らしは無理なので診て欲しい」と言うことらしい。「何をブツブツ言っているのか」と聞くと、「腹の中に狸が住んでいて、時々あばれまわり、狸の言葉で何やら喋っている」らしい、と解説してくれた。学生時代の知識を総動員してみると、どうも内科でなく精神科の病気のようなのだ。その旨説明すると、「近くに精神科の病院はないし、手続きするあいだ入院させてほしい」と頼まれてしまった。

病室では、ベッドの上で虚ろな目をして何やらモソモソと喋っているかとおもえば、腹を出して眺めたりポンポン叩いたりしている。どうも例の腹の狸が暴れているらしい。官舎に帰って学生時代に習った精神科の本を取りだし読んでみると、症状がピッタシ、やはり精神科の病気だ。転院の手続きが早くできないかな…と待っている間に、念のためと検査しておいた血液の結果を見てビックリ。そこには明らかにホルモンの欠乏を示す結果が書かれていたのである。これは大変とこんどは内科の教科書をたよりに診察したり、事情に詳しい人に来てもらい病状の経過を聴

いてみると、なんとこれ又、ホルモン欠乏の病気に妙に合う。さあ、これからが大変。何やら分からぬ狸言葉を張り上げながら暴れ回る狸婆さんに爪でひっかかれたり、足で蹴られながら尿を採ったり採血をしたり…、やっとの思いでした検査の結果から、脳からのホルモン欠乏による稀な病気であることが判明した。

「何をやるんや、毒を飲ませるのか」と今度は人間言葉を喋りながら抵抗するのをなだめすかして治療開始…。次第に目の輝きも戻り、お腹をポンポン叩く回数も少なくなってきたある日、「お腹の中の狸はどうしたの」と尋ねると、「いつの間にかお腹の中に住み着き、暴れたりお腹を叩くように指図したりするようになった」と話してくれた。そうこうするうちに症状も軽快してきたので、精神科の病院に転院させずに退院させることになった。退院の日、「他の病院に行かずにすんでよかったね。狸はまだいるの」と聞くと、「何のことだす。何にも覚えていませんけん」と怪訝な顔をして言った後、ニコッと笑って迎えに来た役場の職員と1ヶ月前に来た路をしっかりと足取りで帰って行った。

何はともあれお腹の狸は来たときと同様、いつの間にやら出て行き、「狸婆さん」は普通の「婆さん」に戻った様だ。この狸婆さん、医者になりたての私に、先入観にとらわれず、ちゃんとした問診と診察が診療の基本であることを、身をもって教えてくれたように思える。



お問い合わせ先 0773-23-6039

夢、叶えませんか？



生徒募集!

願書
受付期間

平成16年1月13日(火)~2月4日(水)

入学願書請求及び募集要項等は下記までお問い合わせ下さい。

福知山医師会看護高等専修学校

福知山市岡ノ174 〒620-0871 TEL 0773-23-6039

発行・編集/社)福知山医師会 〒620-0871 京都府福知山市岡ノ173 TEL:0773-23-6039 FAX:0773-23-8454
UR L/http://www.fukuchiyama.kyoto.med.or.jp/



PRINTED WITH SOYINK

この印刷物は古紙50%の再生紙に、ソイ(大豆油)インキで印刷されています。